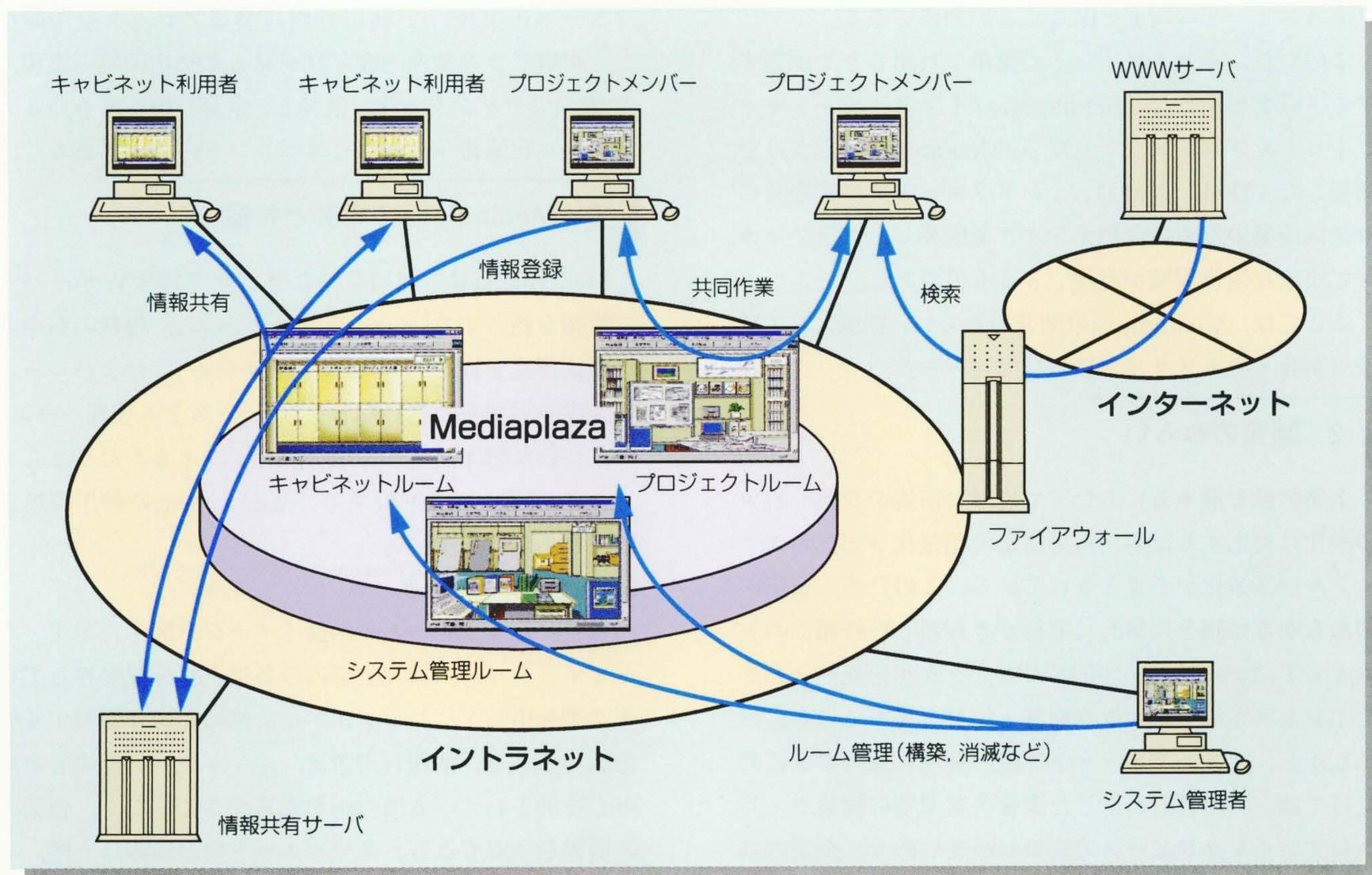


イントラネット上に仮想オフィスを実現する 「Mediaplaza/インターネットキャビネット&プロジェクト」

Virtual Office Environment for Intranet

入野研自 Kenji Irino 原田宜則 Yoshinori Harada
田中 勝 Masaru Tanaka 澤田瑞穂 Mizuho Sawada



注：略語説明 WWW(World Wide Web)

仮想オフィスを実現するイントラネットシステム

イントラネット上に情報共有や共同作業のための仮想オフィスを構築し、使いやすいインタフェースが利用できるようにする。その結果、企業内情報の共有や有効活用が促進でき、プロジェクト活動に必要な共同作業の効率化も図れる。

インターネットの急激な発展に伴い、企業内情報システムにWWW技術を取り入れた「イントラネット」の構築ニーズが高まっている。インターネット技術を適用することにより、WWWブラウザを用いた統一的なインタフェースで企業内の情報を共有することが可能となり、ビジネススピードの向上を図ることが期待できる。

しかし、イントラネットを実際の業務に適用するにあたっては、利用目的に応じた情報共有環境の構築や、使いやすいインタフェースの構築が必要であり、企業内の利用者が情報の関連づけや登録などを容易に行える操作環境が求められている。

このたび、イントラネット上に情報共有や共同作業のための仮想オフィス環境を構築し、グラフィカルで快適な操作環境を実現する「Mediaplaza(メディアプラザ)/インターネットキャビネット&プロジェクト」を開発した。

利用者は、ネットワークやサーバを意識することなく、情報の共有や共同作業を円滑に進めることができる。また、利用者が作成、登録する情報はインターネット上の表現形式であるHTML(Hypertext Mark-up Language)フォーマットに変換することなく、そのままのファイル形式で共有できるため、情報伝達の効率化や情報活用の幅を拡大することができる。

1. はじめに

インターネットの急激な発展に伴い、企業内情報システムにWWW技術を取り入れたイントラネットの構築ニーズが高まっている。インターネット技術を適用することにより、WWWブラウザを用いた統一的なインタフェースで企業内の情報を共有することが可能となり、ビジネススピードの向上を図ることが期待できる。

このたび、イントラネットが簡単に利用できる仮想オフィス環境を備えた「Mediaplaza/インターネットキャビネット&プロジェクト」(以下、Mediaplazaと言う。)を開発した。Mediaplazaは、イントラネット上に情報共有や共同作業のための仮想オフィスを構築し、グラフィカルで快適な操作環境が実現できるものである。

ここでは、Mediaplazaの開発のねらい、特徴、および適用業務・導入メリットについて述べる。

2. 開発のねらい

企業活動を進めるにあたって急激な市場の変化や競争の激化に対応するため、意思決定の迅速化やビジネスサイクルの高速化が必要とされている。このため、企業内のあらゆる情報を効率的に共有できる新しい情報システムとして、WWWサーバとWWWブラウザを組み合わせたイントラネットが大きな期待と注目を集めている。

しかし、イントラネットを実際の業務に適用するにあたっては、利用目的に応じた情報共有環境の構築や、使いやすいインタフェースの構築が必要であり、企業内の

利用者が容易に使いこなせる操作環境が求められている。

そのため、イントラネットをシステム基盤として企業内で取り扱う文書を中心としたビジュアル情報の共有と、共同作業をやさしいインタフェースで実現することを目的にMediaplazaを開発した。開発にあたっての基本的な考え方は、(1)イントラネット上に仮想オフィス環境を構築し、人間の操作感覚に合う、使いやすいインタフェースの実現、(2)利用者別の業務プロセスを明確化し、利用できる業務内容だけが見える操作環境の実現、(3)情報のデジタル化に追従し、企業が持つあらゆるデジタル化情報へのアクセスポイントの実現である。

3. Mediaplazaの概要と特徴

Mediaplazaは、利用目的に合わせてWWWサーバ上の情報を統合する「キャビネットルーム」、複数の利用者が共同作業を行う「プロジェクトルーム」、およびルームの作成や利用者の登録などを行う「システム管理ルーム」の三つの仮想オフィス環境を、グラフィカルなやさしいインタフェースで実現する。Mediaplazaの動作環境を表1に示す。

3.1 キャビネットルーム

キャビネットルームの画面イメージを図1に示す。キャビネットルームは、企業内の各拠点で分散管理している文書を中心としたビジュアルな情報を統合管理する仮想環境である。情報利用者は、ネットワーク上のどの場所で管理されている情報かを意識することなく、企業内の情報を共有できる。キャビネット内の情報は、棚、バ

表1 Mediaplazaの動作環境

Windows NT*1とHP-UX*2をプラットフォームとした、代表的なWWWサーバに対応している。

対象機種	CPU : Pentium*3	CPU : PA-RISC*4
OS	Windows NT	HP-UX
WWWサーバプログラム	Internet Information Server または、NETSCAPE COMMUNICATIONS SERVER*5	NETSCAPE COMMUNICATIONS SERVER

注：略語説明ほか

CPU(Central Processing Unit)

OS(Operating System)

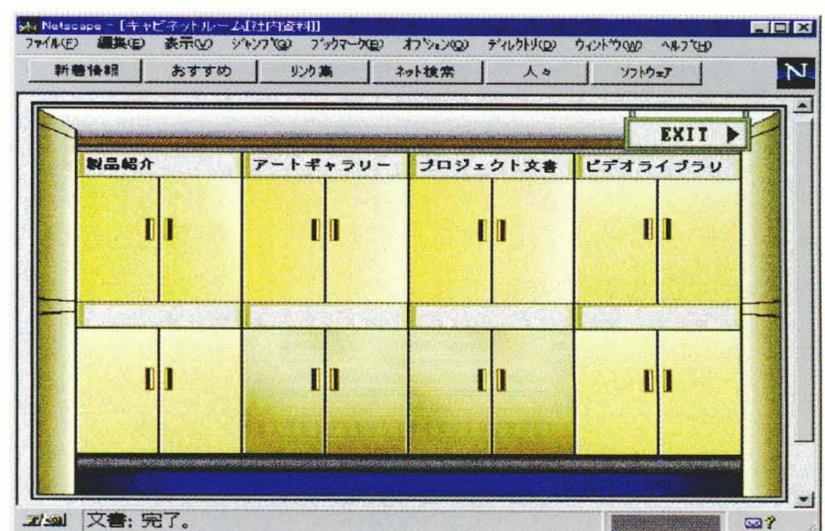
*1 Windows NTは、米国Microsoft Corp.の商標である。

*2 HP-UXは、米国Hewlett-Packard Companyのオペレーティングシステムの名称である。

*3 Pentiumは、Intel Corp.の登録商標である。

*4 PA-RISCは、米国Hewlett-Packard Companyの商標である。

*5 NETSCAPE COMMUNICATIONS SERVERは、米国、日本およびその他の国における米国Netscape Communications Corp.の商標である。

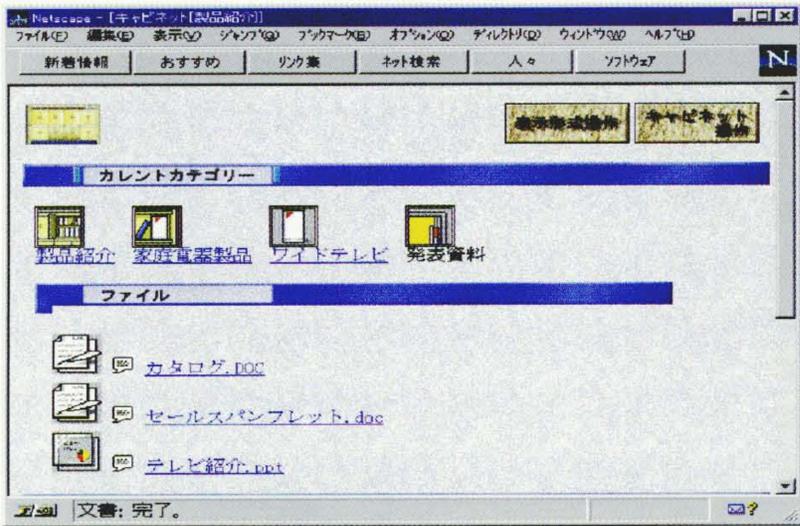


注：Netscape Communications Corp.のNETSCAPE NAVIGATOR*で表示した画面である。

*NETSCAPE NAVIGATORは、米国、日本および他の国における米国Netscape Communications Corp.の商標である。

図1 キャビネットルームのGUI(Graphical User Interface)

最大8個のキャビネットを仮想的に統合でき、物理的な情報の管理場所を意識することなく利用できる。



注：Netscape Communications Corp.のNETSCAPE NAVIGATORで表示した画面である。

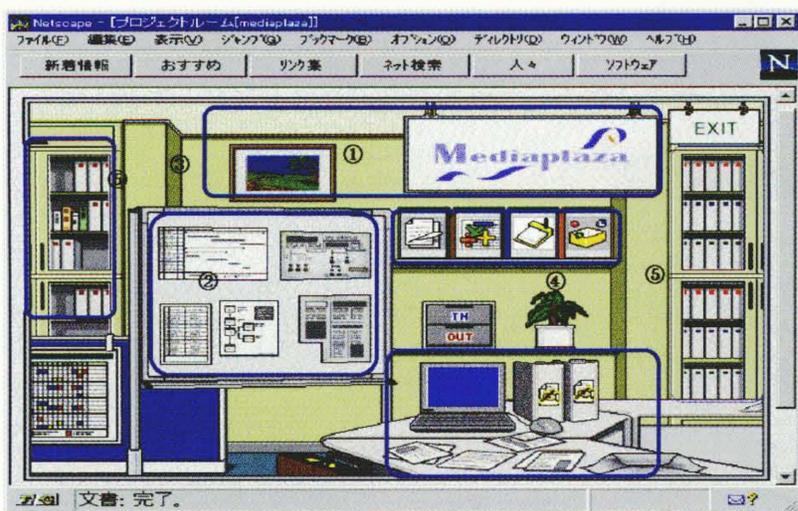
図2 キャビネットのGUI

棚・バインダ・インデックスで分類している情報カテゴリーをたどることにより、必要な情報を簡単に参照できる。

インダ、インデックスの階層化した情報カテゴリーで管理する。そのため、パソコン操作に不慣れな利用者でもオフィスで文書を探すのと同じ手順で検索できる。また利用者自身が作成する情報は、インターネット上の表現形式であるHTMLフォーマットに変換することなく、そのままのファイル形式で登録できる。キャビネットの画面イメージを図2に示す。

3.2 プロジェクトルーム

プロジェクトルームの画面イメージを図3に示す。プロジェクトルームは、複数のメンバーが参加し、共同で行うプロジェクト活動などを支援する共同作業環境であ



注：Netscape Communications Corp.のNETSCAPE NAVIGATORで表示した画面である。

図3 プロジェクトルームのGUI

画面中の①ロゴ・スローガン、②ホワイトボード、③ミーティング机、④工具箱、⑤キャビネットが使用できることにより、共同作業を効率化できる。

る。プロジェクトルームでは、日程計画表などの掲示、メンバー間でのコミュニケーションを行うツールの起動、成果物を保管するキャビネットなどにより、プロジェクト活動を効率的に進めることができる。

3.3 システム管理ルーム

システム管理ルームの画面イメージを図4に示す。システム管理ルームでは、仮想オフィス環境の生成や利用者の登録など、Mediaplazaの運用に必要な管理作業を行うことができる。

3.4 セキュリティとアクセスコントロール

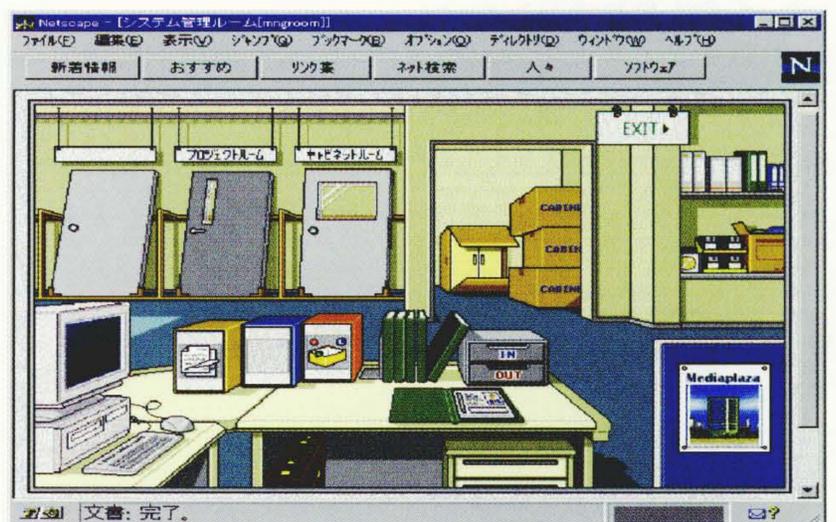
企業内での情報共有では、情報の機密レベルに応じた利用者の設定が重要である。Mediaplazaでは、利用者を識別するID(Identification)認証を設け、不正なアクセスの防止や情報カテゴリー単位のきめ細かなアクセスコントロールを実現している。

4. 適用業務と導入メリット

4.1 適用業務例

Mediaplazaの主な適用業務として、情報共有・意見交換を主とする共同作業や情報の収集・提供を主とする情報サービスなどが想定される。特に、(1)各拠点に分散している複数のメンバーが共同で作業を行う商品の企画・開発業務、(2)市場調査依頼や業務委託を受けて実施結果を報告するコンサルティングサービス、(3)企業内情報管理として商品情報の管理や営業日報・折衝記録管理などの情報管理業務の効率化が期待できる。

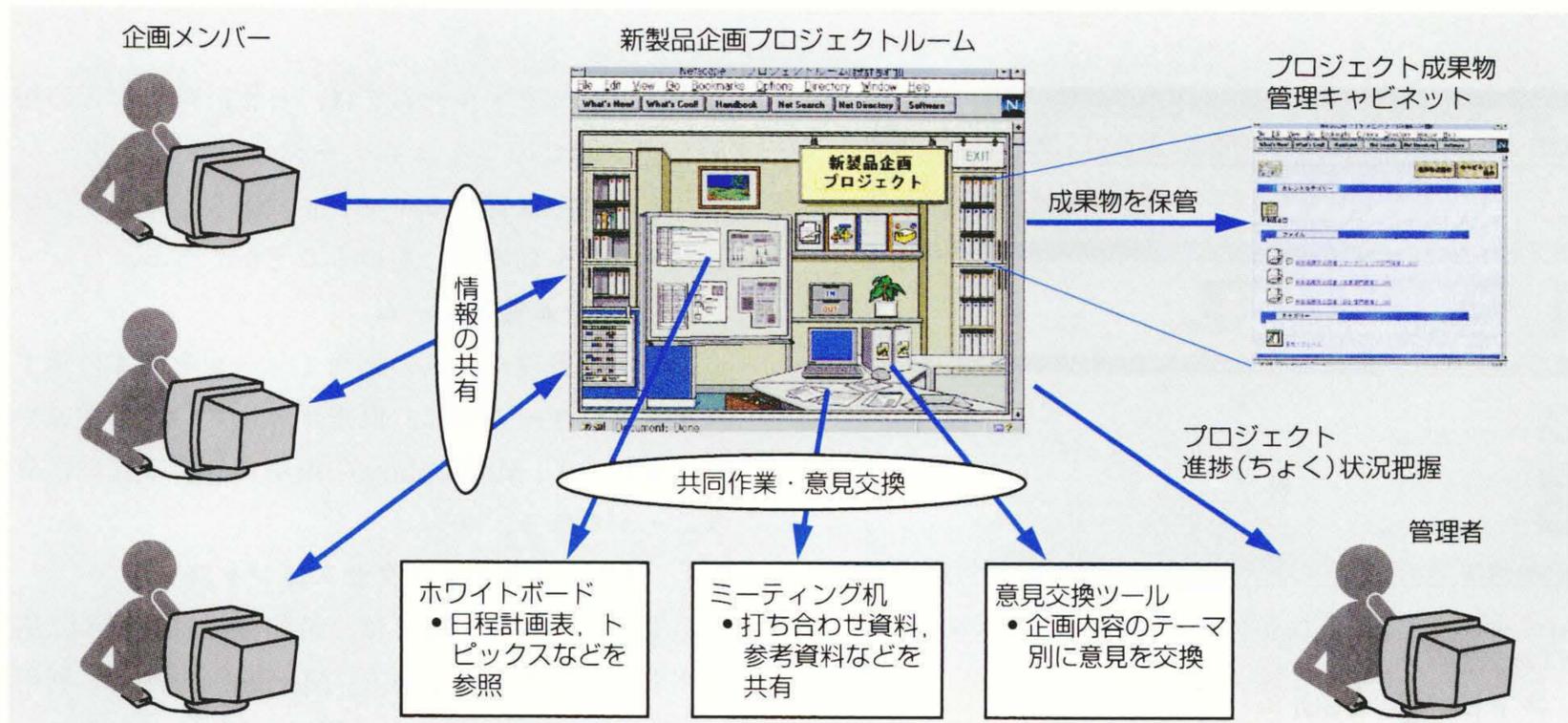
新製品企画業務への適用例を図5に示す。企画メンバーは、プロジェクトルームのキャビネットを用いた情報



注：Netscape Communications Corp.のNETSCAPE NAVIGATORで表示した画面である。

図4 システム管理ルームのGUI

仮想オフィスやキャビネットの作成、利用者の登録などの運用管理作業を効率化できる。



注：画面は、Netscape Communications Corp.のNETSCAPE NAVIGATORで表示したものである。

図5 新製品企画業務での適用例

プロジェクトルームを利用して、各メンバーは新製品企画業務に必要な情報の共有や成果物をキャビネットで管理することができ、共同作業や意見交換を効率的に進めることができる。一方、管理者は最新のプロジェクト進捗状況をいつでも把握することができる。

共有により、ほかの企画メンバーの成果の活用やミーティング机による意見交換によって効率のよい企画業務が推進できる。管理者は、キャビネットに保管された成果物やホワイトボードにはり付けられた日程計画表によるスケジュールの確認が行え、新製品企画の進捗状況を常に把握することができる。

4.2 導入メリット

(1) 情報利用者の導入メリット

情報の格納場所を意識せず、ビジュアルな操作環境でパソコンに不慣れな利用者にも簡単に利用できる。また、情報の登録は利用者自身が行えるので、情報活用の幅が拡大できる。

(2) システム管理者の導入メリット

仮想オフィス環境で、パソコンの操作環境や利用するツールが企業内で統一でき、イントラネットの構築や運用管理を効率化することができる。また、不正なアクセスを防止して、機密情報の安全性を確保することができる。

5. おわりに

ここでは、イントラネット上に情報共有や共同作業のための仮想オフィス環境を構築し、グラフィカルで快適な操作環境を実現する“Mediaplaza”について述べた。

今後も、発展し続けているインターネット技術を取り入れ、より快適な操作環境、利用目的に応じた仮想オフィス環境を構築していく考えである。

参考文献

- 1) 大島，外：ネットワーク時代における情報システムコンセプト“FOREFRONT with Cyberspace”，日立評論，79，4，340～344(平9-4)

執筆者紹介



入野 研自

1985年日立製作所入社、情報システム事業部
オープンソリューション本部 開発部 所属
現在、Mediaplaza, Mediatemplateシリーズの開発・販売に従事
E-mail: k-irino@system.hitachi.co.jp



田中 勝

1986年日立製作所入社、情報システム事業部
オープンソリューション本部 開発部 所属
現在、Mediaplaza, Mediatemplateシリーズの開発・販売に従事
E-mail: masatana@system.hitachi.co.jp



原田 宣則

1983年日立システムエンジニアリング株式会社入社
第2システム本部 システム技術部 所属
現在、Mediaplaza, Mediatemplateシリーズの開発・販売に従事
E-mail: y-harada@system.hitachi.co.jp



澤田 瑞穂

1988年日立東北ソフトウェア株式会社入社
システム開発本部 第2システム開発部 所属
現在、Mediaplaza, Mediatemplateシリーズの開発・販売に従事
E-mail: m-sawada@system.hitachi.co.jp